

神奈川大学 「みなとみらいキャンパス」開設

神奈川大学(横浜市神奈川区六角橋3)は、本年4月に、横浜市のみなとみらい(MM)21地区43街区に「みなとみらいキャンパス」を開設します。

神奈川大学は、1928年に横浜市中区桜木町に開設された横浜学院に始まり、1930年に前身の横浜専門学校が横浜市神奈川区六角橋に移転しました。現在、8学部と8研究科を擁していて、約1万8千名の学生が在籍しています。同校では、2028年の創立100周年とその後の発展を見据えて、多くの取り組みを進めてきましたが、発祥の地である桜木町に隣接するMM21地区に計画された「みなとみらいキャンパス」はその一環です。

「みなとみらいキャンパス」は、高さは約100m、地上21階建て、地下1階建ての大型ビルで、2018年9月に着工し、2020年11月に竣工しました。みなとみらい線のみなとみらい駅や新高島駅、横浜市営地下鉄高島町駅から徒歩で通える好立地にあります。周辺には日産グローバル本社や資生堂、富士ゼロックスなどの大企業が多く集積しているほか、横浜港や横浜中華街などの観光スポットや美術館、音楽堂などの文化施設も近くにあります。その利便性とビジネスと文化を肌で感じることのできる恵まれた環境を活かし、「国際・日本」の融合した未来「創造・交流」キャンパスを目指しています。

1階から3階の低層階は、一般の人も入れる共有スペースで、多言語の異文化交流の場であるグローバルラウンジや、外国人観光客も利用できる観光ラウンジを

はじめ、図書館や多目的ホール、ワールドビュッフェ、エクステンションセンターなどが設けられています。4階から10階は講義室や学生ラウンジ、中・小ホールなどが、11階から21階には研究室や研究所、ゼミ室などが設けられています。

この新キャンパスには、2020年4月に開設された「国際日本学部」のほか、「外国語学部」、「経営学部」の3つのグローバル系学部が設置され、約5千名の学生が学ぶこととなります。

横浜市中心部では、MM21地区に横浜国立大学がサテライトキャンパスを設けているほか、横浜国立大学も昨年4月にサテライトキャンパスを新設しましたが、本格的なキャンパス開設は神奈川大学が初めてとなります。市内中心部への進出は受験生の人気を集めていて、同大学の志願倍率は全体的に前年を上回った模様です。2023年には関東学院大学も関内地区に新キャンパス開設を予定しています。

今日の少子化が進行する中で、全国の大学では学生集めが重要課題となっていて、大学間の学生獲得競争は激しさを増しています。横浜市中心部への大学進出が続く背景には、学生や研究資金を集めるのに有利な立地を確保する狙いがあります。一方、大学が集積することで学生や研究者の交流が進展するなどの相乗効果を期待する声も出ています。ビジネスや商業のイメージの強い両地区ですが、学生街としての賑わいも期待されます。



新キャンパスは地上21階建ての大型ビル



みなとみらいキャンパス(出典:神奈川大学HP)